

# 障害者雇用ガイド



## 若年性認知症 編

### 若年性認知症って、な～に？

記憶力や判断力などの脳の働きが低下し、日常生活や仕事など普通の生活が困難になる病気です。

65歳未満で発症した認知症のことを言い、誰にでも起こりうる脳の病気です。



#### 原因にはどんな疾患がありますか？

脳梗塞や脳出血などの脳血管障害、脳が萎縮するアルツハイマー型認知症や前頭側頭型認知症、頭部外傷後遺症などがあります

#### どのくらいの方が発症しているのですか？

全国の若年性認知症者は約 37,800 人、山口県では 500 人弱と推計されています  
(H21 厚生労働省「若年性認知症の実態と対応の基盤整備に関する研究」調査結果より)

#### 発症したらどんな事が心配されますか？

- ①病状の進行により、就業の継続が困難になり、経済的な問題が起こる可能性があります
- ②配偶者や家族が介護にあたるために、それまで続けていた仕事をやめなければならない場合があります
- ③家族内で複数の方への介護が必要になる場合や、高齢の親が介護者になる場合があります。介護疲れから配偶者や家族が疲弊してしまふことがあります
- ④親が病気になったことで、子どもへの心理的な影響がでることがあります
- ⑤若年性認知症に対する周囲の理解不足のために周囲から孤立してしまう可能性があります



## 就労継続のために

### 就労場面で起こってくる困難

- スケジュール管理が適切に出来ない
- 仕事で失敗を繰り返す
- 複数の作業を同時に行なえなくなる
- 段取りが悪くなり作業効率が低下する

さんの場合、その他に…

- 
- 
- 

### 本人の気持ち

- 職場では自分を保とうと四苦八苦している
- 行動を言葉で表すことや、疑問を聞くことが難しい
- 即答が困難で、自分の行動に自信が持てなくなる
- 周囲の自分に対する感情や表現は敏感にキャッチ

### 早期発見の重要性

- 上司・同僚の役割** : 変化に気づいたら上司・産業医に相談しましょう
- 産業医の役割** : 職務遂行上の問題を把握し 専門医に繋ぎましょう
- 家族の役割** : ささいな変化に気づいたら、相談窓口や職場と連携をとりましょう
- 本人の心構え** : 一人で抱え込まずに周囲に相談しましょう

## 雇用管理のポイント



### 作業設定上の配慮

- 作業の動作をシンプルにし、複雑な動作を入れない
- 見本やモデルを見せ、行動を分かりやすく伝える
- 集中力が続かない時、短時間の休憩を入れる
- 試行錯誤している時は、自己整理の機会として尊重する
- 一緒に振り返り、努力と達成の経過を評価する
- 本人の能力に見合った、就業時間・職務内容など変更可能な選択肢を検討する

### 接し方のキーワード

- 何らかの役割、達成感が得られる環境づくりに配慮する
- 強制せず、一緒に行動をする
- 指示は、簡単な短い言葉で伝える
- 不安を和らげ、リラックスできるように接する
- 言葉だけでなくジェスチャーを添え、視覚的に確認できる方法で伝える

### 療養支援と情報共有で安心職場

- 服薬継続や症状把握のために、通院できる環境を配慮する
- 関係機関の協力を得ながら、本人の得意なことや苦手なこと  
配慮事項などを文書化し、職場での情報伝達に役立てる



**相談窓口：光栄会 障害者就業・生活支援センター**

宇部市新天町1丁目 2-32（新天町アーケード内） Tel 0836-39-5357



若年性認知症の方の職場適応や就労継続を  
すすめるために、ぜひ支援機関をご活用ください。

### 支援機関・事業所名

### 担当者

### 連絡先

(作成日) 平成      年      月      日

(記入者)

発行先 : 宇部市障害者就労支援ネットワーク会議 (移行支援)  
事務局 : 宇部市 健康福祉部 障害福祉課  
〒755-8601 宇部市常盤町一丁目7番1号  
☎0836-34-8523  
<http://www.city.ube.yamaguchi.jp/>  
発行月 : 平成29年 1月

宇部市障害者就労支援ネットワーク会議作成

参考文献 : 障害者職業総合センター 若年性認知症を発症した人の雇用継続のために

協力 : 山口県若年性認知症支援相談窓口